

生 活

目 次

1	生活科改訂のポイント	1
2	生活科の目標のポイント	2
3	生活科の内容のポイント	4
4	生活科の指導計画の作成と内容の取扱いのポイント	6
5	生活科の指導計画の作成と学習指導のポイント	8
6	指導例	12

1 生活科改訂のポイント

(1) 改善の基本方針

- 具体的な活動や体験を通して、人や社会、自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせるといったその趣旨の一層の実現を図るため、人や社会、自然とのかかわる活動を充実し、自分自身についての理解などを深めるよう改善を図る。
- 気付きの質を高め、活動や体験を一層充実するための学習活動を重視する。また、科学的な見方・考え方の基礎を養う観点から、自然の不思議さや面白さを実感する学習活動を取り入れる。
- 児童を取り巻く環境の変化を考慮し、安全教育を充実することや自然の素晴らしさ、生命の尊さを実感する学習活動を充実する。また、小学校における教科学習への円滑な接続のための指導を一層充実するとともに、幼児教育との連携を図り、異年齢での教育活動を一層推進する。



定着と発展…教科として定着してきたこれまでの考えをより確かなものにし、すべての学校、教室で質の高い実践が行われるとともに生活科の一層の定着を目指す。

低学年教育の中核に…低学年の児童の学校生活の中心にあり、各教科等との関連も深い生活科の学習内容をより充実させる。

原点回帰…直接体験を重視した学習活動を展開し、意欲的に学習や生活をさせる等の生活科新設の原点にかえり、実践を積み上げていく。

(2) 生活科改訂の要点

① 目標の改善

- 教科の目標は、現行を維持する。
- 学年の目標は、自分自身に関する目標を加え、三つから四つに増やす。

② 内容及び内容の取扱いの改善

ア 気付きの明確化と気付きの質を高める学習活動の充実



気付きとは ・対象に対する一人一人の認識
 ・児童の主体的な活動によって生まれるもの
 ・知的な側面だけでなく、情意的な側面も含むもの
 ・次の自発的な活動を誘発するもの

気付きの質が高まるとは

- ・無自覚なもの → 自覚された気付きへ
- ・一つ一つの気付き → 関連付けられた気付きへ
- ・働きかける対象への気付き → 自分自身や自分の生活についての気付きへ

(自分のよさや可能性への気付き)

【児童の気付きを適切に取り上げ、つなぎ合わせる話合い活動で見られる児童の例】

「ダイズはさやの中でおへそとおへそがくっついて、おへそから栄養をもらっているんだって。」「それなら、ダイズの親は枝で、ダイズがその子どもだね。」「へえっ。なんか、人間みたいだね。」

イ 伝え合い交流する活動の充実

生活科における具体的な活動や体験の様子などを、身近な人々と伝え合う活動を行うことで、かかわることの楽しさが分かり、多くの人と進んで交流していこうとする子どもの姿を目指す。

ウ 自然の不思議さや面白さを実感する指導の充実

科学的な見方・考え方の基礎を養う観点から、自然の不思議さ面白さを実感する学習活動を取り入れる。自然に直接触れる体験や動物と植物の双方を自分たちで継続的に育てることを重視する。

エ 安全教育や生命に関する教育の充実

これまでと同様、今後も、児童を取り巻く社会の急激な変化に対応するという視点から、安全教育や生命に関する教育を一層重視する。

オ 幼児教育及び他教科との接続

幼児教育との接続の観点から、幼児と触れ合うなどの交流活動や他教科等との関連を図る指導を引き続き重視する。



幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指した取組のポイント

- ・指導者の相互理解…合同研修会、保育や授業の参観等を通じて、指導内容や指導方法等について、互いのよさや違いを分かり合い、学び合う。
- ・幼児と児童の交流…年間を通した計画に位置付け、互いに価値ある交流にする。
- ・家庭・地域への情報発信…共に体験する機会、Web等で、成長を伝えていく。

2 生活科の目標のポイント

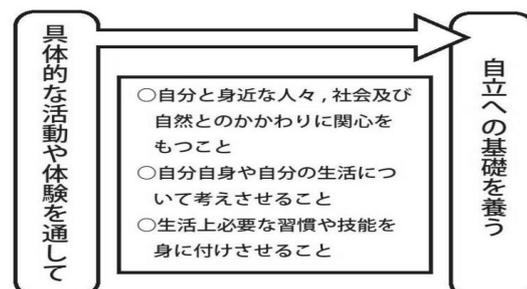
具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

(1) 教科目標の趣旨

① 具体的な活動や体験を通すこと

生活科では、児童が体全体で身近な環境に直接働きかける創造的な行為が行われるようにすることを何よりも重視する。

生活科の教科目標



具体的な活動や体験…例えば、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして直接働きかける学習活動であり、また、そうした活動の楽しさやそこで気付いたことなどを言葉、絵、動作、劇化などの方法によって表現する学習活動。

② 自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもつこと

自分とのかかわりに関心をもつということは、児童を取り巻く人々、社会及び自然が自分自身にとってもつ意味に気付き、身の回りにあるものを見直し、切実な問題意識をもって、新たな働きかけをしたり表現したりなどすることである。

③ 自分自身や自分の生活について考えること

児童が身近な人々、社会及び自然と直接かかわる中で、自分自身や自分の生活につい

て新たな気付きをすることである。自分自身についてのイメージを深め、自分のよさや可能性に気付き、心身ともに健康でたくましい自己を形成できるようにすることは、自立の基礎を養う上で大切である。

④ 生活上必要な習慣や技能を身に付けること

生活科は、児童が身近な人々、社会及び自然と直接かかわり合う中で、それに必要な習慣や技能を身に付けることを目指している。

⑤ 自立への基礎を養うこと

自立への基礎を養うことは、生活科の究極的な目標である。ここでいう自立とは、以下に述べる三つの自立を意味している。

学習上の自立… 自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる学習活動を自ら進んで行うことができ、自分の思いや考えなどを適切な方法で表現できる。

生活上の自立… 生活上必要な習慣や技能を身に付けて、身近な人々、社会及び自然と適切にかかわることができるようになり、自らよりよい生活を創り出していくことができる。

精神的な自立… 自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもつことによって、現在及び将来における自分自身の在り方に夢や希望をもち、前向きに生活していくことができる。

(2) 学年の目標

① 2学年に共通する目標の設定

具体的な活動を通して思考するという低学年の児童の発達上の特徴に配慮した柔軟な指導ができるようにしている。また、児童の生活圏を学習の対象や場にして、直接体験を重視し、地域や児童の実態に応じた学習活動が展開できるようにしている。

② 学年の目標の構成 ※下線部分は、今回の改訂で追加された部分。

(1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心をもち、地域のよさに気付き、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員としての自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。

児童が自分と身近な人々や社会とのかかわりに関心をもって、それらと主体的にかかわり、自分の住む地域のよさに気付き、愛着をもつとともに、その中で安全で適切な行動ができるようにすることを目指している。

(2) 自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心をもち、自然のすばらしさに気付き、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。

児童が自分と身近な自然とのかかわりに関心をもって、それらと主体的にかかわり合い、自然のすばらしさに気付き、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を豊かにしたりすることができるようにすることを目指している。

(3) 身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活することができるようにする。

児童が身近な人々、社会、自然と繰り返しかかわり、それらとのかかわりを深め、自

分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって毎日の生活を送ることができるようにすることを目指している。

(4) 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。

児童が例えば、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどの様々な活動の楽しさを味わうことや、そのための技能、能力を身に付けること、活動や体験したことを表現し、考えることができるようにすることを目指している。

3 生活科の内容のポイント

(1) 内容構成の考え方

① 基本的な視点 (自分と対象とのかかわりを重視する視点)

(1) 自分と人や社会とのかかわり (2) 自分と自然とのかかわり (3) 自分自身

② 具体的な視点 (基本的な視点を詳しく示し、九つの内容を構成する際に必要な視点)

ア 健康で安全な生活	カ 情報と交流	サ 基本的な生活習慣や生活技能
イ 身近な人々との接し方	キ 身近な自然との触れ合い	
ウ <u>地域への愛着</u>	ク 時間と季節	
エ 公共の意識とマナー	ケ 遊びの工夫	
オ <u>生産と消費</u>	コ 成長への喜び	※下線部分は、今回の改訂で追加された部分。

③ 内容を構成する具体的な学習活動や学習対象

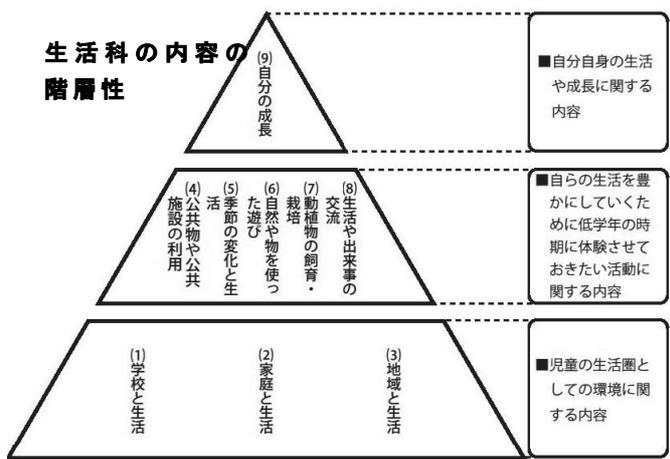
・低学年の児童にかかわってほしい学習対象

①学校の施設 ②学校で働く人 ③友達 ④通学路 ⑤家族 ⑥家庭
 ⑦地域で生活したり働いたりしている人 ⑧公共物 ⑨公共施設 ⑩地域の行事・出来事
 ⑪身近な自然 ⑫身近にある物 ⑬動物 ⑭植物 ⑮自分のこと

・生活科の内容 (具体的な視点と学習対象を組み合わせ学習活動を核に構成された内容)

「学校と生活」、「家庭と生活」、「地域と生活」、「公共物や公共施設の利用」、「季節の変化と生活」、「自然や物を使った遊び」、「動植物の飼育・栽培」、「生活や出来事の交流」「自分の成長」

④ 内容の構成要素と階層性



複数の内容を組み合わせて単元を構成する際には、各内容の構成要素とその階層性を意識して行うことに配慮する。

内容(9)「自分の成長」は、内容(1)～(8)のすべての内容との関連が生まれる階層としてとらえていく。したがって、一つの内容だけで独立した単元を構成することも、他のすべての内容と関連させて単元を構成することも考えられる。

生活科の各内容は、三つの要素（①児童が直接かかわる学習対象、実際に行われる学習活動等、②対象とのかかわりや学習活動を通して生まれる気付きなどの一人一人の思考・認識等についての記述、③それらを通して一体的にはぐくまれる能力・態度等）が組み込まれ、構成されている。

生活科の内容の全体構成

階層	内容	学習対象・学習活動等	思考・認識等	能力・態度等
環境に関する内容 児童の生活圏としての	(1)	■学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かる ■通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもつ		■楽しく安心して遊びや生活ができる ■安全な登下校ができる
	(2)	■家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考える		■自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができる
	(3)	■自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かる		■それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができる
内容の時期に体験させておきたい活動に低学年	(4)	■公共物や公共施設を利用する	■身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることが分かる	■それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができる
	(5)	■身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどする	■四季の変化や季節によって生活の様子が変わること気付く	■自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる
	(6)	■身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくる	■その面白さや自然の不思議さに気付く	■みんなで遊びを楽しむことができる
	(7)	■動物を飼ったり植物を育てたりする	■それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、または生命をもっていることや成長していることに気付く	■生き物への親しみをもち、大切にすることができる
	(8)	■自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行う	■身近な人々とかかわることの楽しさが分かる	■進んで交流することができる
する内容 自分自身の成長に関する	(9)	■自分自身の成長を振り返る	■多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる	■これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができる

(2) 内容の改善のポイント

○ 内容(1)「学校と生活」に「その安全を守っている人々などに関心をもつ」ことが加えられた。

学校の中の生活だけではなく、登下校も含めて、楽しく安心して安全な生活ができるようにすることが課題となっていることを踏まえて改訂された。安全を守っている施設や人々には、子ども110番の家や登下校の安全を見守る地域ボランティアの人々などが想定できる。なお、安全については、自然災害、交通災害、人的災害に対する安全確保に配慮することが必要である。

○ 内容(3)「地域と生活」に「愛着」という言葉が加えられた。

児童が活動を通して、地域の人々や場所のよさに気付くとともに、それらを大切にしたい気持ちや地域に積極的にかかわろうとする気持ちを、一層強くもつようにする。

○ 内容(4)「公共施設や公共物の利用」に「公共物や公共施設を利用し」と「身の回りにはみんなで使うもの」という言葉が加えられた。

公共物や公共施設について、実際に利用する中で、物や施設、人とかかわりながら、利用の仕方を考えさせることを重視する。また、児童がふだん生活している中で、身の回りには様々な公共物や公共施設があり、多くの人がそれらを利用していることに気付くようにする。

○ 内容(6)従前の「遊びを工夫し」が「遊びや遊びに使う物を工夫してつくり」に変更され「自然や物を使った遊び」に「その面白さや自然の不思議さに気付き」という言

葉が加えられた。

遊びや遊びに使う物を工夫してつくることで、児童が、遊びの面白さとともに、自然の不思議さにも気付くことができるようにする。



遊びや遊びに使う物を工夫してつくる面白さ…遊びに没頭する遊び自体の面白さ

遊びを工夫し遊びをつくり出す面白さ

友達と一緒に遊ぶ面白さ

自然の不思議さ…自分の見通しと事実が異なったときに生まれる疑問

目に見えないものはたらきが見えてくること

自然の中にきまりを見付けること

自然の事物や現象がもつ形や色、光や音など自然現象そのもの

○ 内容(8)「生活や出来事の交流」が新設された。

自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、互いのことを理解し合ったり心を通わせたりしてかかわることの楽しさが実感として分かり、身の回りの多様な人々と進んで交流ができるようにする。

○ 内容(9)「自分の成長」に「自分自身の成長を振り返り」という言葉が加えられた。

自分自身の成長を振り返る学習活動を行う。

4 生活科の指導計画の作成と内容の取扱いのポイント

(1) 指導計画作成上の配慮事項

(1) 自分と地域の人々、社会及び自然とのかかわりが具体的に把握できるような学習活動を行うこととし、校外での活動を積極的に取り入れること。

生活科では、児童が直接地域に出て、自分と地域の人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分とのかかわりが具体的に把握できるようにすることが重要である。

今回の改訂において、内容(8)「生活や出来事の交流」が位置付けられたことを踏まえ、従前からの「必要に応じて手紙や電話を用い伝え合う活動についても工夫すること」を、これまで以上に意識して取り扱う。

(2) 第2の内容の(7)については、2学年にわたって取り扱うものとし、動物や植物へのかかわり方が深まるよう継続的な飼育、栽培を行うようにすること。

2学年にわたって取り扱うとは、創意工夫し、第1学年でも第2学年でも取り扱うということである。これは、飼育・栽培という活動の特性から一回限りの活動で終わるのではなく、経験を生かし、新たなめあてをもって、繰り返したり長期にわたったりして活動することを意図したものである。



継続的な飼育、栽培…季節を越えた飼育活動で成長を見守ること、開花や結実までの一連の栽培活動を行うことなど

(3) 国語科、音楽科、図画工作科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に、第1学年入学当初においては、生活科を中心とした総合的な指導を行うなどの工夫をすること。

生活科の学習は、教科の性格上、他教科との関連が深く、その指導に当たっては、低学年教育全体を視野に入れて、他教科等との関連を図りながら進めていくことが求められる。

指導の在り方としては、次のようなことが考えられる。

○生活科の学習成果を他教科等の学習へ生かすこと

○他教科等の学習成果を生活科の学習に生かすこと

○教科の目標や内容の一部について、合科的に扱うことによって指導の効果を高めること



合科的な指導…各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開すること

関連的な指導…教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導すること



第1学年入学当初の指導の工夫について（スタートカリキュラム）

児童の発達の特長や各教科等の学習内容から、入学直後は合科的な指導などを展開することが適切である。

例)・4月の最初の単元では、学校を探検する生活科の学習活動を中核として、国語科、音楽科、図画工作科などの内容を合科的に扱い大きな単元を構成することが考えられる。こうした単元では、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動を、ゆったりとした時間の中で進めていくことが可能となる。大単元から徐々に各教科に分化していくスタートカリキュラムの編成なども効果的である。

(4) 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、生活科の特質に応じて適切な指導をすること。

生活科における道徳教育の指導においては、学習活動や学習態度への配慮、教員の態度や行動による感化とともに、生活科の目標と道徳教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う必要がある。

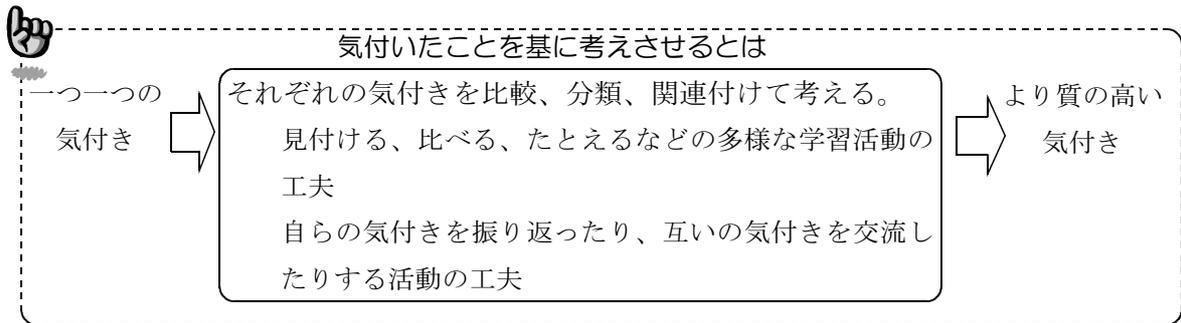
道徳の時間の指導との関連では、生活科で扱った内容や教材の中で適切なものを、道徳の時間に活用することが効果的な場合もある。また、道徳の時間で取り上げたことに関係のある内容や教材を生活科で扱う場合には、道徳の時間における指導の成果を生かすように工夫することも考えられる。

(2) 内容の取扱いについての配慮事項

(1) 地域の人々、社会及び自然を生かすとともに、それらを一体的に扱うよう学習活動を工夫すること。

児童が地域の人々、社会及び自然と直接かかわる学習活動を今まで以上に重視するとともに、それらを自分とのかかわりで一体的に扱うことにつなげるため、児童の側に立ち、児童の思いや願いに沿った必然性のある学習活動を展開することが重要になる。

(2) 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えさせるため、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を工夫すること。



児童の気付きは教員が行う単元構成や学習環境の設定、学習指導によって高まることから、今まで以上に意図的・計画的・組織的な授業づくりが求められる。

(3) 具体的な活動や体験を行うに当たっては、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるようにすること。

多様な人々と触れ合う活動については、日常的にかかわれる人との活動が基本である。具体的な活動や体験をする中で触れ合うことができるようにするものであり、多様な人々について、それだけを取り出して指導したり単元を構成したりするのではない点に配慮する。

(4) 生活上必要な習慣や技能の指導については、人、社会、自然及び自分自身にかかわる学習活動の展開に即して行うようにすること。

人、社会、自然及び自分自身にかかわる学習活動の展開に即して、それぞれの具体的な場面で、その必要に応じて適切に指導する。

5 生活科の指導計画の作成と学習指導のポイント

(1) 生活科における指導計画と学習指導

児童が自ら学び、自ら考え、主体的な学習ができるようにするためには、指導計画の作成が重要である。

① 児童の目線に立った指導計画を作成するための大切な三つの視点

- ・具体的な活動や体験が十分にできる時間的な視点
- ・主体的な活動の広がりや深まりを可能にする空間的な視点
- ・学習の対象にじっくりと安心してかかわることのできる心理的な視点

② 学習指導の特質

ア 児童の身近な生活圏を活動や体験の場や対象にすること

生活科では、児童が身近な生活圏において、本来一体となっている人、社会、自然とかかわりながら、自らの興味・関心を発揮して具体的な活動や体験を行う。

イ 児童が身近な人や社会、自然と直接かかわる活動を重視すること

生活科においては、かかわりを通して対象を認識することを重視しており、その意味からも直接体験を欠かすことはできない。

ウ 児童の思いや願いをはぐくみ、意欲や主体性を高める学習過程にすること

生活科では、児童の興味・関心を踏まえ、適切な出会いの場を用意するとともに、

その思いや願いがさらに膨らむような学習過程を展開していく。

エ 働きかける対象についての気付きとともに、自分自身に気付くことができるようにすること

具体的な活動や体験を通して、かかわる対象への気付きが生まれること、それとともに、一人一人が以前の自分より向上し成長したことに気付くことを大切にする。

オ 児童の姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげること

多様な児童の発言やしぐさを丁寧に見取り、指導に生かすため、児童が感じ取った事柄を、教員が尋ね返したり問いかけたり共感したりするなどの言葉かけや働きかけをして、児童の発言やしぐさの背景を深く理解し、それを言葉に出して意思の疎通を図ったり、児童の思いに共感したりしていくことが重要である。

(2) 年間指導計画の作成

① 児童の実態に対応する

個々の児童が興味・関心を向ける対象や活動への思いや願い、これまでの体験や既に身に付けている習慣や技能などを事前に把握し、活動への意欲を高め、積極性を引き出す。

② 地域の環境を生かす

地域の素材や活動の場などを見出す観点から地域の環境を繰り返し調査し、教材化する。見出した学習の素材や人材、活動の場などを例えば生活科マップ、人材マップ、生活科暦などに整理し、活用する。

③ 指導体制を整える

生活科は、一人一人の思いや願いが尊重され、その実現に向けた具体的な活動や体験が重視されるため、個々の活動は多様なものとなる。したがって、一人一人の活動を支援し指導するためには、その体制を整え工夫することが必要である。また、今日、大きな課題となっている学校や地域における児童の安全確保は、低学年の生活科にとどまらず、全校的な教育課程の編成、実施上の課題である。このことから学校としての指導体制を十分整えることが重要である。

④ 授業時数を適切に割り振る

年間標準授業時数の範囲内で生活科の目標が実現できるよう、内容や活動に応じ適切に時数を割り振る。

⑤ 2年間を見通し立案する

単元と単元のつながりや関係を意識し、学校や地域の特色、児童の実態に応じて、2年間を見通した年間指導計画を作成する。



単元と単元のつながりや関係とは

- ・季節に応じた単元配列
- ・特定の対象を中心にした複数単元の関係付け
- ・ストーリー性を重視した単元の連続
- ・他教科との合科的・関連的な指導の充実
- ・幼児教育と小学校教育の接続
- ・第3学年の学習への発展

(3) 単元計画の作成

児童の思いや願いの実現に向けた学習活動を意図的、計画的に構成する。

年間指導計画 (例)			
【第1学年】	1学期	2学期	3学期
わあい1ねんせい ・一緒に遊ぼう ・学校探検	なかよしたんけんたい ・春探検、夏探検、秋探検、冬探検、雨の日探検 ・家探検	もうすぐ2年生 自分じまん	
はなをそだてよう・いきものともだち ・アサガオ(一人一鉢) ・生き物ランド見学 ・生き物を育てる ・好きな花(一人一鉢、入学式へ)			
幼・保 と1年		いもほり	秋フェスタ
1・2年	学校探検 種まき	生き物 ランド	おもちゃ ランド
【第2学年】	1学期	2学期	3学期
わあい2年生 ・一緒に遊ぼう ・学校案内	だいすき!わたしの町 たんけんたい ・公園じまん(春夏秋冬) ・町じまん(施設、場所、自然、人) <春、夏、秋、冬>	せいちょう したよ ・自分探検	
やさいをそだてよう・いきものはかせになろう ・冬を越したぼくのQQ(生き物) ・アサガオの種をおくろう ・生き物ランド ・野菜を育てよう ・好きな冬野菜を育てよう			

① 生活科の単元の特徴

- ・児童の思いや願いの実現に向けた必然性のある学習活動で構成する。
- ・具体的な活動や体験の中に、児童一人一人の思いや願いに沿った多様な学習活動がある。
- ・学習活動を行う中で、高まる児童の思いや願いに弾力的に対応できる柔軟性がある。
- ・それぞれの学校や地域の特性を把握し、そのよさを生かす。

② 創意工夫ある単元計画の作成

ア 内容の組合せ

- ・児童の意識を重視し、学校や地域の特性を生かすため、複数の内容で一つの単元を構成する。

イ 学習活動の組織化

- ・児童の興味・関心に配慮する。
- ・児童の思いや願いが高まる可能性のある対象を選定する。
- ・選定された学習活動による具体的な学習活動を想定する。
- ・個と集団の学習を効果的に配置する。
- ・学習活動の繰り返しを重視する。

ウ 発達・成長への配慮

- ・低学年の児童は身近な学校や地域を、どのようにとらえていくか、ということ
- ・低学年の児童は思い出したり振り返ったりすることについて、どのようにして行っていくか、ということ
- ・技能の違いについて

エ 評価の在り方

- ・学習過程における児童の関心・意欲・態度、思考や表現、気付き等を評価し、目標

達成に向けた指導と評価の一体化を行う。

- ・教員の評価が、より信頼性の高い評価となるよう、様々な立場からの評価資料を収集する。
- ・単元全体を通しての児童の変容や成長の様子をとらえる長期にわたる評価を重視する。
- ・授業時間外の児童の姿の変容にも目を向け、評価の対象に加える。
- ・学習活動や学習対象の選定、学習環境の構成、配当時数などの単元計画や年間指導計画などについての評価を行い、今後の授業改善や単元構想に生かす。

(4) 学習指導の進め方

生活科は、児童が充実した活動や体験をするとともに、そのことで生まれる気付きが大切である。この気付きの質を高めるために、次のような学習の進め方が考えられる。

気付きの質を高めることを中心とした学習指導の進め方

○ 振り返り表現する機会を設ける

活動や体験したことを言葉などによって振り返ることで、無自覚だった気付きが自分の中で明確になったり、それぞれの気付きを共有し関連付けたりすることが可能になる。

○ 伝え合い交流する場を工夫する

互いに伝え合い交流する活動により、集団としての学習を高めるだけではなく、一人一人の気付きを質的に高めていくことが重要である。

○ 試行錯誤や繰り返す活動を設定する

条件を変えて試したり、再試行したり繰り返したりすることができる学習活動を用意し、学習環境を構成することを心がける。

○ 児童の多様性を生かす

児童の学習活動を多様にすれば、それぞれの気付きも多様になり、それぞれの違いや共通点を見出す中で、気付きを質的に高める児童の姿が期待できる。それぞれの児童が自らのよさを発揮できるようにするとともに、互いのよさやそれぞれの気付きを共鳴させることが、生活科の学習指導では大切である。学級全体の中に、多様性を尊重する風土を醸成し、互いが異なることを認め合える雰囲気づくりをしていくことが大切である。

8 指導例

◆ 第1学年

単元名 「 がっこうってたのしいな 」 (1学期)

1 単元の目標

- 学校の施設、学校生活を支えている人や友達に関心を持ち、楽しく学校生活を送ろうとする。
- 発見したことや分かったこと、それを基に考えたことなどを、先生や友達に伝えることができる。
- 学校にはいろいろな教室や施設があること、それぞれの役割をもって学校生活を支えてくれている人がいることに気付く。

2 単元のポイント

本単元は、内容（1）及び（8）で構成されている。

入学して間もない児童が、自分で見たり、聞いたり、感じたり、考えたりしたことを友達と伝え合い交流する活動を通して、『自分の学校』を実感し、親しみを感じて毎日を楽しく過ごせるようにしたい。また、国語科、音楽科、図画工作科など、他教科等との関連を図り、新しい環境に無理なくなじめるよう、合科的な指導を工夫したい。

(1) 伝え合い交流する活動について

児童は、学校を探検して見付けたことや調べたことを伝え合う中で、「どの教室にも時計があるんだな。」「台所のある教室があったのか。」など自分が発見したと友達が発見したことを比べて、似ているところや違うところに気付いていく。そのことが、「学校には時計がいくつあるのかな。」「その教室は、だれが使うのかな。」などと新たな疑問につながり、教職員にインタビューしたり、考えたりしながら学校探検を続けることになる。このように、伝え合い交流する活動は、集団としての学習を高めるだけでなく、一人一人の気付きの質を高めていくことにもつながる。また、児童の実態を十分に把握しながら適切な時期に、ねらいを明確にした話合いの場を設定することで、互いの思いを広げたり、深めたりすることができる。

(2) 児童の思いや願いを大切にし、活動への意欲を高める

一人一人の児童の思いや願いを大切にし、学習意欲を高めるために、対象との出会わせ方を工夫することが大切である。例えば、学級での名刺交換をきっかけに、同級生、上級生、教職員へと興味・関心を広げ、たくさんの人とかかわることができるようにしたり、2年生の学校案内をきっかけに「学校を探検したい。」という思いをもたせたりすることで、児童の意欲的な活動につながっていく。また、児童の思いや願いがとぎれず活動につながるよう、個々の活動の記録を残していくことや話し合ったときの記録を掲示することなどを心がけ、その思いや願いがさらに広がり、深まるような学習活動を工夫していくことが重要である。

3 単元の構想と展開

学習活動及び支援

(1) 小学校に入学したよ

- ・友達や上級生と一緒に遊んだり、活動したりする。
- ・1年生を迎える会、縦割り班活動などで共に遊ぶ。
- ・楽しかったことを絵などに表したり、先生や友達に伝えたりする。

☆「みつけたカード」を用意し、絵をかかせて、活動を振り返らせる。また、会話・発言・つぶやきなどを大切に次時につなげる。

(2) 学校探検をしよう

- ・学校探検に出かける準備をする。
- ・学校を探検するときの約束について話し合う。

☆あらかじめ、全職員には、児童の活動への協力を求めておく。
 ☆児童に対しても、マナーや安全面での注意点などを話し合った上で、個々の思いや願いに沿った活動が十分にできるよう配慮する。

- ・グループで学校探検をする。
- ・見つけたことを絵や文で、「みつけたカード」に書く。

☆何度も繰り返し活動させ、分かったこと、気付いたことなどを、自分なりの方法で記録できるよう用紙を用意する。

構想（児童の意識の流れ）

がっこうってたのしいな！（全22時間）

1 しょうがっこうににゅうがくしたよ（3）

友達や上級生と一緒に遊ぼう！

<他教科等との関連>

おねえちゃんが校歌を歌ってくれてうれしかったよ。

へびのミイラがあったよ。

どうぞよろしく（国語）

ペンダントをプレゼントしてもらったよ。

名刺を作って、友達にわたしたよ。

うたでともだちをつくらう（音楽）

ぼくわたし（図工）

2 がっこうたんけんをしよう（10）

学校探検の準備をしよう！

勉強中は、静かにしよう。

廊下は、走らない。

たんけんしたよみつけたよ（国語）

あいさつをしよう。

ちゃんとお礼を言おう。

がっこうたんけん（道徳）

グループで学校探検をしよう！

教室を見てみよう

人に会おう

自然から探そう

教室・職員室
特別教室など

校長先生、養護の先生など

ウサギ・ダンゴムシ
サクラなど

教室は、全部でいくつあるのかな。

保健室の先生とお話したよ。

としょしつ（国語）

職員室に、長い鉄の棒が壁にくっつけてあったよ。

本がたくさんある部屋がありました。読んでみたいな。

図書室の先生に絵本を読んでもらったよ。

教室に、流し台やコンロがありました。

桜の花が、全部なくなっていたよ。

ダンゴムシがいっぱいいたよ。何を食べてるのかなあ。

(3) 見て見て！聞いて聞いて！

- ・自分の発見を紹介する。
- ・学校探検で心に残ったことを、絵や文などで表現し、みんなの前で発表する。

☆友達の発見を、自分のものとは比べながら聞いたり、考えたりできるように助言する。

- ・探検地図にまとめる。
- ・教室に掲示された大きな校内地図にカードをはり、発見したことを報告する。

(4) にとっておきの発見を伝えよう

- ・にとっておきのものを見付けるため、さらに友達と学校探検をする。

☆活動中は、ほんの小さな発見でも児童が自分の目でとらえたことを尊重したい。

☆児童が嬉しそうな表情をしたり、語りかけてきたりするときを逃さず、どんなことに心を寄せているのかを受け止める。

- ・にとっておきの発見を絵や実物等を用いて伝える。

(5) 活動を振り返ろう

☆友達の素晴らしさ、自分のがんばりや高まりに気付かせる。



実践に当たって

児童一人一人の意欲に基づいて、五感を通じて見付けたり、疑問に思ったことを調べたり、見付けて分かったことを伝えたりという活動を繰り返させることで、気付きの質を高め、「学校って楽しいところだな。」という実感をもたせたい。そのことは、自ら学ぼうとする力の育成や、自立への基礎を養うことにつながると考える。

3 みてみて！きいてきいて！（4）

自分の発見を知らせよう！

学級みんなに報告しよう。

「みつけたカード」に書く。
「わたしは、〇〇を見付けました。」

探検地図にまとめよう。

見つけたものを、絵カードに書いて地図にはる

がっこうたんけん
(道徳)

大きな古時計が動いていたよ。

校長室に、写真がたくさんあったよ。

学校中を全部調べるぞ。

まだ、知らない部屋があるなあ。

学校には、いくつ時計があるんだろう。

4 にとっておきのはっけんをつたえよう（4）

自分だけの発見をしよう！

まだ、だれも知らないものを見付けたい。

鹿のはく製を見付けたよ。

小さなエレベーターを見付けたよ。給食を運ぶんだって。

教頭先生が、毎日最後に戸締まりをしているんだよ。

鳥のはく製も見付けたよ。

耕耘機も見付けたよ。

自分だけの発見を伝えよう！

玄関に、鹿の置き物があります。体の毛は本物みたいですが、目はビー玉です。しっぽには針金が入っています。6年生の人が「本物の鹿だ」と教えてくれました。ぼくは不思議だったので、お母さんに聞くと「死んだ動物を生きていたときのように残しておくはく製という方法があるよ。」と教えてくれました。この鹿はどこにすんでいたのか知りたいです。

5 かつどうをふりかえろう（1）

わたしの学校には、面白いものがいっぱいあるんだな。

やさしい先生がいっぱいいることが分かりました。

◆ 第1学年

単元名 「あきになったね きもちがいいね」(2学期)

1 単元の目標

- 公園や野原などを散歩したり遊んだりする中で、季節の変化や自然の不思議さに目を向けている。
- 秋の木の葉や実などの自然物を使ってみんなで楽しく遊ぶことができる。
- 季節の変化や自然の不思議さに気付くとともに、友達と協力したり、幼児と交流したりすることを通して、自分や友達の頑張りや成長に気付く。

2 単元のポイント

本単元は、内容の(3)、(5)、(6)、(8)及び(9)で構成されている。

秋の公園や野原に出かけ自然と直接かかわって自然の中で見つけたものを使って遊んだり集めたり見つけたものを使って製作活動を行ったりし、自然の不思議さや面白さに気付き楽しむ。季節を体感した楽しさ・喜びを幼児に伝え交流し、友達とふれ合い自分の成長を振り返ることができる活動である。

(1) 自然の不思議さや面白さに気付く

身近な自然に浸り、四季の変化を楽しむことは感性を豊かにする上で重要な体験である。身近な自然と諸感覚を使って繰り返しかかわらせ、児童の気付きの質を高めたい。そのためにも、見る、聞く、触れる、作る、探す、遊ぶなど、自然に直接働きかける活動にすることが大切である。木の葉の色づきやどんぐりから出た芽、実った木の実の発見などをきっかけに、自然物について考えたり、調べたりして進んで自然とかかわり、遊びを工夫する活動を通して、自然の不思議さや面白さを実感させたい。そして、これらの活動を充実させることが科学的な見方や考え方の基礎を養うことにつながっていくと考える。

(2) 幼児教育との接続

小一プロブレムなど、学校生活への適応を図ることが難しい児童の実態から、幼児教育と小学校教育との円滑な接続が課題となっている。幼児と児童の交流の機会を設けたり、教員間の意見交換や合同研修の機会を設けたりして計画的・継続的に連携を図る必要がある。

本単元では、1学期のカレーパーティーに招待してくれた幼児を、今度は自分たちが招待し、自然物を使った遊びや製作活動を基にして伝え合い交流する活動を行う。交流相手の幼児を意識し、「分かりやすく伝えよう」「相手の気持ちを考えよう」などと気を付けさせることで児童のコミュニケーション能力の育成を図るとともに、かかわることの楽しさを実感する機会としたい。また、幼児にとっても、学校生活への希望やあこがれをはぐくむ機会となるようにしたい。

《幼小連携の一例》

	幼児と児童の交流	指導者間の相互理解など
1学期	「カレーパーティー」	保幼小連絡会、小学校授業参観、出前保育(遊び)、事前打合せ
2学期	「あきフェスタ」	1年担任と幼保前担任交流、出前保育(読み聞かせ)、事前打合せ
3学期	「むかしのあそび」	1日体験入学、保幼小連絡会、出前保育(もの作り)、事前打合せ

3 単元の構想と展開例

学習活動及び支援

(1) 何をして遊ぼうかなあ

- ・秋について話し合う。
- ・五感を使ってたくさんの秋を見付ける。

☆日ごろから児童が持ちこむ季節の変化が分かるものはその都度紹介しておく。

☆春に行った公園の変化を予想し、秋の公園に出かけ、秋の自然物を探させたり、それを使った遊びを楽しませたりする。

- ・公園で秋見付けをする。

☆公園に行くには事前調査を行い、どこにどんな動植物がいるのか把握しておく。トイレや危険場所など、安全面についての指導も必ず行っておく。

☆やってみみたいことが見付からない児童には、友達と一緒に活動させたり、用意した図鑑や見本の作品を参考にさせたりする。

☆見付けたことや遊んだことをカードに書くことによって、自然の不思議さや面白さに気付かせる。



(2) 遊ぼう 飾ろう

- ・材料を集めて、自分が作りたいものを作る。

☆友達の作品と比べたり一緒に遊んだりして修正する。

☆児童が友達と交流しながら何度も作り直し、工夫していること

構想（児童の意識の流れ）

あきになったね きもちがいいね（17時間）

1 なにをしてあそぼうかなあ（6）

季節の変化について発表しよう。

みかんがおいしくなってきた。

長そでになった。上着を着ている。

カマキリをつかまえたいなあ。

カブトムシはいかなあ。



- ・春に行った公園に出かけ、秋見付けをしよう。
- ・自然を使って遊ぼう。

これは何の実かなあ。調べよう。

虫が、あまりいないなあ。

赤い実がきれいだなあ。

きんもくせいのおいがしたよ。

イチョウが黄色くなった。ギンナンのにおいがする。

<教科等との関連>

わたしのはっけん
（国語 5）
・見付けたものの色・形・大きさ・においなど様子が分かるように発表する。

たくさんどんぐりがおちてるよ。コマを作ろう。

どんぐりゴマがよく回るよ。

カマキリの卵があった。

雲の形が夏と違う。

- ・見付けたことや遊んだことを発見カードにかこう。

黄色い葉っぱもあった。

緑の葉っぱが少なくなった。

くつつきむしがもっとほしいなあ。

オナモミを見つけたよ。

葉っぱでちょうちよができた。

もっとちがう色やちがう形の葉っぱがほしい。

2 あそぼう かざろう(6)

めあてをもって、もう一度公園に行き、落ち葉や木の実などを持ち帰ろう。

集めてきた落ち葉や木の実をつかって遊んだり、作品を作ったりしよう。

どんぐりゴマがよく回るね。ぼくにも教えて。

ブローチがかわいいね。

を認める。
 ☆落ち葉は新聞紙の間にはさみ乾燥させてから使わせる。
 ☆アイデアがなかなかうかばない児童には、図鑑や友達の前作や遊びを紹介する。
 ☆完成したものを教室に飾ったり遊び道具やおもちゃをコーナー展示したりして、互いの作品のよさに気付かる。

魚の形の葉っぱがあるよ。赤の魚と黄色の魚だ。
 かんむりみたいだね。すすぎがかっこいい。
 <児童が作る作品(予想)>
 ・ぼうし・おめん・リース
 ・ブローチ・どんぐりゴマ
 ・マラカス・まとあて
 ・はっぱのさかなつり
 ・かべかけ・かんむり など

〇〇さんのドングリは、よく回る。ぼくのは、あんまり回らない。どうして?
 どこに穴を開けるとよく回るんだろう。
 オナモミがくっついて面白いね。もっとやらせて。
 うまくくっつくね。真ん中が百点だ。
 マラカスには、どんぐりをいっぱい入れたね。いい音がするね。
 ほかのものを入れたら、どんな音がするかな。

(3) さあ、集まれ 秋フェスタ!

・1学期に交流した幼児を招待し、今まで作ったものを使って、協力しながら「あきフェスタ」を計画し、開催する。

☆自分から進んで準備にかかわり自信をもって役割が果たせるよう声がけをする。
 ☆みんなが楽しめるよう、幼児の立場に立った言葉遣いや態度について考えさせる。

3 さあ、あつまれ あきフェスタ! (4)

計画を立てよう。
 招待状を出そう。
 カレーパーティーのお礼に、幼稚園のみんなを招待しよう。
 看板を作ろう。絵もかこう。
 今度は幼稚園児を楽しませよう。
 スタンプカードを作ろう。
 どんな役や係がいるかなあ。
 さつまいものおやつを作りたいなあ。
 順番にならんでもらおう。
 おみやげを渡したいなあ。
 〇〇さんのように、やさしく話すよ。
 リハーサルをしよう。
 ゆっくり分かるように話すよ。
 秋フェスタをしよう。
 いっぱい遊べて楽しかった。



(4) 活動を振り返ろう

・自分や友達の頑張ったことやもう少しこうすればよかつと思ふことなどを振り返る。

☆絵や文で表現させることにより無自覚なものを自覚された気持ちにしていける。
 ☆幼児を意識し積極的に取り組むことを通して、友達のよさや自分の成長に気付かせる。

4 かつどうをふりかえろう (1)

振り返りカードに気付いたことをかこう。
 〇〇さんが大きな声を出して頑張っていたよ。
 いつもより大きい声が出ていたと言ってもらえた。
 マイクで言うとき、ドキドキしたけどがんばったよ。
 〇〇ちゃんが幼稚園の子にやさしくしていたよ。
 幼稚園の先生に「しっかりと話せたね」とほめられて、うれしかった。
 どんぐりの穴あけがじょうずだと言われて、うれしかった。
 幼稚園の〇〇ちゃんに、「ありがとう」と言ってもらえて、うれしかった。
 幼稚園の〇〇ちゃんが、うれしそうな顔をする、わたしもうれしくなったよ。

実践に当たって

児童の自然体験の少なさが課題となっている。身近な自然の動植物の様子や気象状況、食べ物、人々の服装や暮らしなどでの季節の変化について、日ごろから関心をもたせておきたい。

◆ 第2学年

単元名 「だいすき！ わたしの町たんけんたい」（1学期）

1 単元の目標

- 自分たちが住む町を探検し、町の自然、人々、公共物などに関心をもつとともに、町のよさを発見し、親しみをもつ。
- 町探検で調べて分かったことや気付いたことを絵や文などで表し、伝え合うことができる。
- 町の人々とかかわる活動を通して、自分たちの生活が町の人々とかかわっていることに気付くことができる。

2 単元のポイント

本単元は、内容（3）、（4）、（5）及び（8）で構成されている。

1年生の時よりも活動範囲を広げて行う町探検の活動において、自然や人々との積極的な触れ合いを通して生まれる一人一人の気付きを大切にしていきたい。また、活動の中で出会う人々と直接触れ合っただけでなく、見たり調べたりしたことを交流し合う中で、自分たちの町のよさを発見し、自分たちの町に親しみをもてるようにしたい。

(1) 気付きの質を高める学習活動の充実について

「気付きとは、対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれるものである。」（『小学校学習指導要領解説生活編』）とあるように、この単元では、児童の思いや願いを大切に、それぞれの児童が関心をもったところを探検させ、見る、聞く、触れる、探すなどの直接働きかける学習活動を展開したい。そして、一度だけではなく、繰り返し町の人々と触れ合う機会を通して、地域のよさに気付かせるようにしたい。また、活動だけで終わらせず、町探検をした後には活動を振り返ることが大切である。自分の気付きを改めて自覚し、他のグループの探検の様子を聞いて比べることが、次の活動への意欲につながる。さらに、町探検をして気付いたことや思ったことを絵や文にまとめて、学級全体で交流したり、町の人々に伝えたりする活動を行うことで、一つ一つの気付きが関連付けられ質が高まったり、一人一人の気付きが全員で共有され集団としての学習が高まったりしていく。このような気付きの質を高めることにつながる繰り返す活動、振り返る活動、伝え合い交流する活動、表現する活動を大切にしたい。

(2) 安全教育に関する教育の充実

児童を取り巻く環境が大きく変化し、安全面への課題が大きくなってきていることを踏まえ、今回の改訂では、「通学路の様子だけでなく、『その安全を守っている人々』に関心をもつこと」が加えられている。町探検の中でも、その人たちとの自然な出会いを設定するなどの取組が考えられる。交通安全指導、活動場所における危険箇所や注意が必要な場所の確認など、子どもたちへの安全指導と併せて取り組むことが大切である。また、グループで町探検をするときには、保護者や地域の方々の協力を求めるなど、安全面への配慮が必要である。

3 単元の構想と展開例

学習活動及び支援

(1) 町の大好きな場所を紹介しよう

- ・自分の大好きな場所をカードに書く。
- ・みんなに、自分の大好きな場所を紹介する。

☆町の大型地図を基に大好きな場所を紹介させ、聞き手に分かりやすくする。

(2) みんなで町たんけん！

- ・学校の周辺や、学校から離れた所を全員で探検する。
- ・探検をして発見した町のすてきなところをカードにまとめる。

☆校外で安全に探検するために気をつけることを話し合わせる。
 ☆安全を見守るボランティアの人たちに関心をもたせる。

(3) グループで町探検！町の「すてき」なところを探そう

- ・探検したい場所ごとにグループをつくり、計画を立てる。
- ・町探検に行く。(2回の予定)
- ・探検して発見したことをカードにまとめ、交流し、活動を振り返る。

☆町探検を安全に行うために、探検場所の方々や保護者に協力をお願いする。

☆町探検で出会う人と気持ちよく過ごすために、どのようにあいさつしたり、インタビューをしたりすればいいのかを話し合わせる。

構想（児童の意識の流れ）

大すき！ わたしの町たんけんたい（全24時間）

1 町の大好きなばしょをしようかいしよう（2）

大好きな場所を書いて、みんなに紹介しよう。

わたしのおすすめは、虫がいっぱいいる〇〇公園よ。

ぼくは、山を登るケーブルカーが大好きです。

ぼくの大好きな場所は商店街の美味しいパン屋さんだよ。

楽しそうだな。行ってみたいな。

2 みんなで町たんけん！（6）

学校の周辺を探検しよう。

学校から離れた所を探検しよう。

道にあった足型は、「とまれ」の印だよ。

これが、ぼくが毎日乗っているケーブルカーだよ。おじさんと、いつもあいさつしてるよ。

長いへびを見つけたよ。

毎朝見守ってくれているおじさんに会ったとき、あいさつができたよ。

文房具屋さんには、わたしのほしいものがいっぱいある。

3 グループで町たんけん！
町の「すてき」なところをさがそう（8）

探検の準備をしよう。

わたしは、〇〇くんが大好きなパン屋さんに行ってみよう。

△△公園には、どんな虫がいるのか楽しみだな。

グループで町探検しよう。（1回目）

公園に、新しい苗がたくさん植えられている。だれが植えているんだろう。

わたしたちが育てているオクラより畑のオクラの方が大きいな。畑の人に聞いてみたいな。

活動を振り返ろう。

町の人にインタビューをするとき、すごく緊張して、声が小さくなってしまった。

インタビューして、文房具屋さんで売っている物が分かった。それから、天井に電気がいっぱいあった。

☆振り返りの交流の中で、もっとうまくやりたいことやさらに知りたいことなどを考えさせ、2回目の探検の意欲を高める。

☆あらかじめ考えた質問だけでなく、探検中に不思議だ、もっと聞いてみたいと思ったことは、その場で聞いてよいことを伝える。

☆更に探検の必要が出てきたときには、下校時、小グループごとに数日に分け、担任が共に行くなどの方法も考えられる。

(4) 町の「すてき」なところを発表しよう

- ・発表の方法を考える。
- ・発表の準備や練習をする。
- ・発表会をする。

☆発表をする方法には、いろいろな方法があることを知らせ、どうしても自分たちが見つけた町のすてきところが伝えられるのかをグループで考えさせる。

- ・模造紙
- ・劇
- ・ペープサート
- ・紙芝居
- ・クイズ (3択、〇×など)
- ・写真を使って など

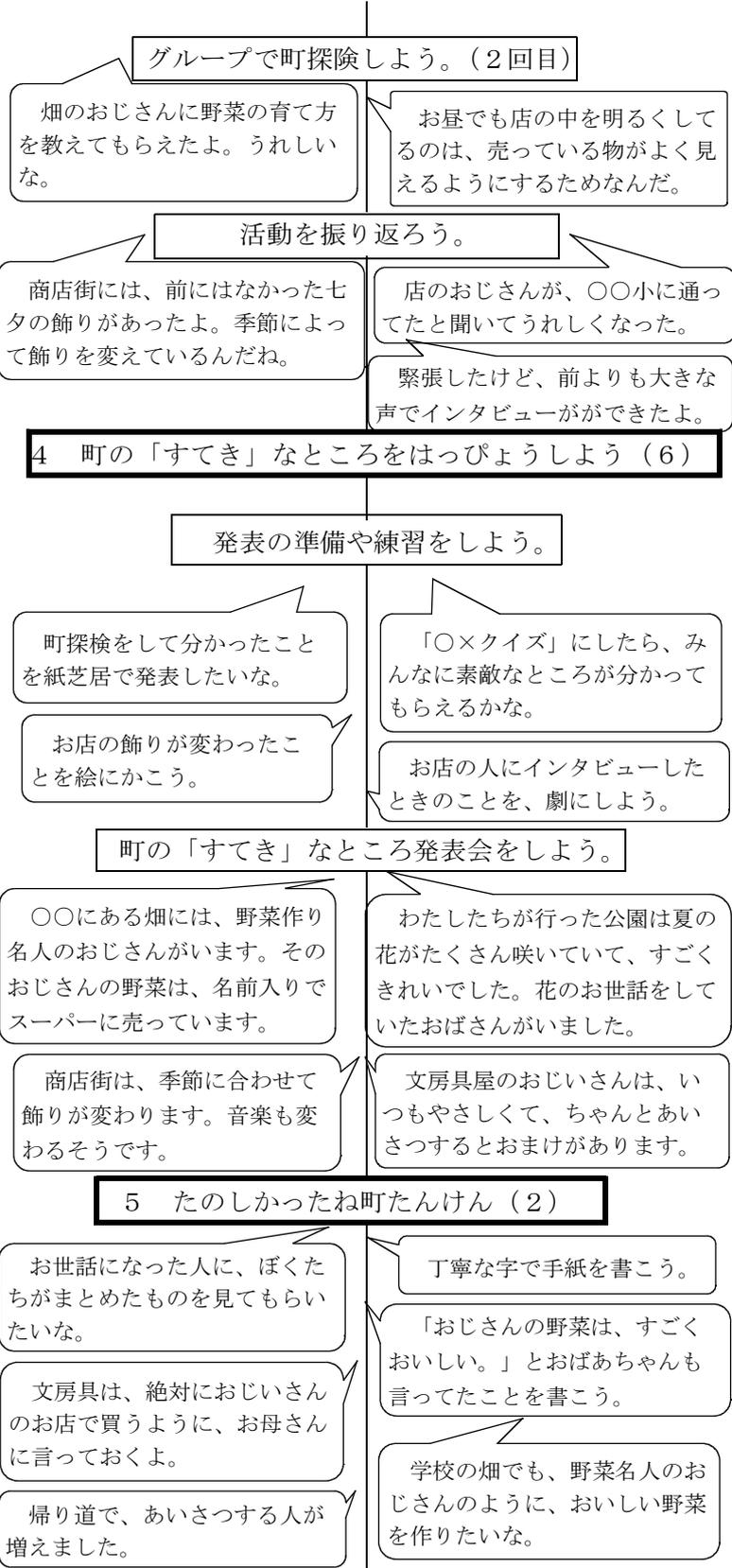
(5) 楽しかったね町探検

- ・町探検でお世話になった人にお礼の手紙を書き、グループで発表するためにまとめたものと一緒に届ける。

☆可能なら、お世話になった人に心をこめて直接手渡したい。

実践に当たって

町の人々との出会いを大切にしたい町探検にしたい。夏休みには家の人と一緒に探検したり、違う季節にも繰り返し探検したりする活動につなげたい。そのことにより、町の人々とのつながりがさらに深まったり、四季の変化に合わせた店の工夫等にも気付くことができたりし、町への親しみや愛着がもてるようになると思う。



◆ 第2学年

単元名 「おもちゃまつりへ ようこそ」(2学期)

1 単元の目標

- 身の回りにある材料を利用して工夫を重ねながら、意欲的におもちゃ作りに取り組んでいる。
- おもちゃの改良点や遊び方で工夫した点を互いに伝え合い、みんなで楽しく遊ぶことができる。
- 友達のおもちゃの作り方や遊び方の工夫を知り、自分や友達のよさに気付く。

2 単元のポイント

本単元は、内容の(6)及び(8)で構成されている。

身近な輪ゴムを使って、「もっと高く飛ばしたい」と工夫しておもちゃを作る中で、遊びを工夫する面白さ、自然の不思議さ、遊び自体の楽しさに気付かせたい。また、「おもちゃまつり」の活動を通し友達や下学年の児童と交流する中で、自分や友達のよさにも気付かせたい。

(1) 自然の不思議さや面白さに気付く

「輪ゴムの本数が多いとよく飛ぶかな?」「太いゴムの方がよく飛ぶかな?」「紙コップの重さは関係あるかな?」などと、いろいろ試させたい。また、一緒に試す場を設けると、互いにコップを飛ばし合い、どちらが高く飛ぶか、どちらが面白い飛び方をするかなどと競争を始める。友達のおもちゃを真剣に見つめ、自分のものと比べ、違いを見いだし、おもちゃを改良していこうとする姿が生まれる。「輪ゴムの本数を多くすると牛乳パックがゴムの力でゆがんでしまった」「輪ゴムを強くかけると、切れてしまう」などと試行錯誤を十分にさせる中で遊びの面白さとともに自然の不思議さにも気付かせることができる。

身近な自然について体験的な理解をし、気付きの質を高める活動を充実させることにより、中学年の理科につながる科学的な見方・考え方の基礎を養う活動となる。さらには、課題に主体的に取り組む態度や自分の思いを自分の言葉で表現できる力も醸成され、「生きる力」を培うことにもつながっていくと考える。

(2) 多様性を生かす

児童一人一人には違いや特性があり、作りたい物も様々である。おもちゃ作りにおいては、児童の思いや願いに寄り添い、児童の活動が多様になるように配慮したい。船・車・ゴム・鉄砲などを作ることによりゴムの特性への気付きや友達の頑張りへの気付きの質を高める児童の姿が期待できる。一緒に遊んだり作ったりして互いにかかわり合う中で、ほかの児童との共通点や相異点、自分自身のよさに気付くようになる。その際、教師が尋ね返したり問いかけたり共感したりするなどの言葉かけや働きかけをするなどして、自らのよさ・友達のよさを共有し、多様性を認め合える雰囲気をつくることが大切である。

3 単元の構想と展開例

学習活動及び支援

(1) ジャンプくんを作って遊ぼう

- ・ 輪ゴムと牛乳パックで紙コップを飛ばす「ジャンプくん」を作り、更に高く飛ばすように工夫する。
- ・ 今までにおもちゃを作ったことを思い出し、紙コップが高く飛ぶおもちゃを作る。

☆高く飛ばすためにどう工夫したらよいかを考えさせてから、何度も作り直させて試したりさせる。

☆友達とかかわりを持ち、作ったおもちゃで遊ぶ面白さとともに遊びをつくり出す面白さも味わわせたい。見せ合ったり比べたりして条件を変えて繰り返し試す態度を大切にしたい。

(2) いろいろなおもちゃを作って遊ぼう

- ・ 自分が作りたい輪ゴムを使ったおもちゃ作りの計画を立てる。

☆ゴムを使ったおもちゃの面白さから、もっと〇〇を作りたいという意欲の高まりを大切に、多様性のある活動になるよう配慮する。

☆参考になる本を紹介したり、夏休みの作品展で見たおもちゃを思い出させる。

☆日ごろから材料を集めておく。

☆設計図をかいて、準備物や組立て方を考えさせ、完成への見通しをもたせる。

- ・ 工夫を繰り返しておもちゃを作る。

☆同じおもちゃを作るグループで考えたり教え合ったりして、よりよい動きができるようにさせる。

☆遊びを工夫し、遊びをつくり出す面白さや一緒に遊ぶ楽しさに気付かせる。

☆遊ぶ活動の中で、自分の頑張りや友達の下さに気付かせる。

構想（児童の意識の流れ）



あそびだいすき あつまれ（全14時間）

1 ジャンプくんをつかって あそぼう(3)

輪ゴムのおもちゃを作ろう。
さらによく飛ばすように工夫しよう。

輪ゴムのかけ方を
変えてみよう。

もっと楽しくなるよ
うにしたいなあ。

輪ゴムの本数を多くしよう。

絵をかこう。

紙コップの重さは関
係あるのかなあ。

飾りをつけよう。

ものさしより
高く飛ばそう。

だれのが遠くまで飛
ぶか競争しよう。

輪ゴムがいきなり切
れてびっくりした。

ゴムで動くおもちゃ
をもっと作りたいな。

2 いろいろなおもちゃをつかってあそぼう(4)

自分が作りたい輪ゴムを使ったおも
ちゃを決め、設計図を書こう。

・ ジャンプがえる・パチ
ンコ・マジックハンド
・ 船・びっくりレター
・ ゴムでつぼう・ゴムひ
こうき・もどり車・レー
シングカー

車で競争したいな。

水に浮かべたいな。

設計図をかこう。

的に命中させたいなあ。

どんなものを作っ
ているかな。

友達をびっくりさせ
たいなあ。

本で調べてみよう。

〇〇くんのように、輪ゴム
を増やせば、速く動くよう
になるんだな。

どんな材料があるかなあ。

急に動いて、紙の中に
本当の虫がいるみたいだ
ね。

輪ゴムを増やすと、牛乳パ
ックがつぶれちゃった。

ゴムの巻き方を反対にす
ると車はバックするよ。

〇〇ちゃんが、輪ゴムを
巻きすぎたら切れてしまっ
た。気を付けないと。

(3)「おもちゃまつり」をひらこう

- ・ 1年生の時、幼児と交流して楽しかったことを思い出し「おもちゃまつり」の計画を立て準備する。

☆自分たちが作って遊んだおもちゃを紹介したいという気持ちを大切にさせる。

- ・ 事前に学年で遊んで、説明の仕方や遊び方を考え、よかったところや更に工夫するところを話し合う。

☆自分から進んでかかわり、自信をもって役割が果たせるように、めあてをもたせたり、できることを考えさせたりする。

☆1年生が楽しめるような言葉遣いや態度で接するように促す。

(4)楽しかったね おもちゃ祭り

- ・ 楽しかったことを振り返り、「振り返りカード」に書く。

☆絵にかいたり文で表したりすることにより、今まで無自覚だった自分や友達の頑張りに気付かせるとともに、それぞれの思いを共有したり関連付けたりして、自分や友達のよさを自覚させる。

3 「おもちゃまつり」をひらこう(6)

計画を立てよう。

〇〇くんは来てくれるかなあ。

ぼくが作ったおもちゃを見せたいなあ。

招待状を出そう。

どんな役や係がいるかなあ。

<他教科等との関連>

おもちゃまつりへようこそ(国語 3)
・おもちゃの作り方や遊び方の説明をまとめる。
☆順序に気を付けて相手にわかるように説明させる。(姿勢・声の速さ・大きさ)

看板を作ろう。
絵もかこう。

リハーサルをしよう。

途中でゴムが切れるかもしれない。すぐに直せるかなあ。

〇〇がおもしろかったよ。

聞きやすいように、ゆっくり話そう。

大勢が一度に来たので困った。順番に並んでもらうようにしよう。

「おもちゃまつり」をひらこう。

1年生が困らないようにしたいなあ。

1年生にも楽しんでもらおう。

4 たのしかったね おもちゃまつり(1)

「おもちゃまつり」をふりかろう。

はじめは恥ずかしかったけれど、大きな声で言えたよ。

〇〇くんが、1年生にすごくやさしく話せていたよ。

1年生の子のコマができ上がったとき、「ありがとう。」と言ってもらえてうれしかった。

一緒に遊んで楽しかった。またやりたいな。

ゴムが少ないと力が弱いけど、多すぎるとおもちゃが壊れてだめなことが分かった。

1年生があまり来なかったので、来てもらうように大きな声を出したら、たくさん来てくれたよ。

もっといろんなおもちゃを作って遊びたいなあ。

おもちゃがこわれたけど、すぐに直せたよ。

〇〇ちゃんのように、1年生に作らせてあげるようにしたら、すごく喜んでくれたよ。



実践に当たって

他学年との交流では、事前の打合せが大切である。交流のねらいや流れを理解し、指導者の役割分担をするとともに、各学年の児童理解や児童間のつながりを把握して指導に当たりたい。

作成委員

井澤徳子	天理市立井戸堂小学校	校長
玉置路子	奈良市立飛鳥小学校	教諭
木下豊子	天理市立二階堂小学校	教諭
田中照恵	生駒市立壺分小学校	教諭
松本吉央	奈良県立教育研究所	研究指導主事
稲浦聡	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指導主事

(作成委員の職名等は平成21年度のものである。)

